

理工学府の完成と with コロナの教育

工学研究院・副研究院長（教育担当） 獨古 薫

2018年4月に理工学府が設置されてから3年が経過し、理工学府は2021年3月に博士課程後期も含めて完成いたしました。2021年3月に予定されていた修了式は新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止のため中止となりましたが、各専攻にて感染防止策を徹底した上で、博士（理学）6名、博士（工学）13名、修士（理学）78名、修士（工学）268名の学位授与を行い、修了生を送り出しました。理工学府の入学者選抜では、2020年10月入学および2021年4月入学の試験を2020年8月に実施しました。試験はCOVID-19感染防止を徹底して、主として筆記試験により行いましたが、日本に入国できない留学生等にも配慮し、一部はオンラインでの試験を実施しました。博士課程前期に関しては、各専攻ともにほぼ入学定員を充足しており、定員の105%以内で管理できています。また、博士課程後期学生に関しても、定員41名に対して2018年度は41名が入学、2019年度は48名、2020年度は51名と順調に推移しており、学位授与機関として着実に実績を積み重ねています。また、工学府に設置されていた連携講座を更新し、理工学府の連携講座として引き続き外部機関や企業等と連携して理工学府学生の教育環境を充実させているところです。

2020年度はCOVID-19感染拡大防止のため、講義科目に関しては全て遠隔授業となりましたが、実験や演習科目（研究室での卒業研究を含む）は一部対面で実施しました。2020年度は遠隔授業を強いられましたが、各教員はこの期間に授業を工夫して実施し、オンラインコンテンツなども含めて授業資料も充実させました。With コロナの2021年度は、学内における感染防止を徹底し、講義棟教室の入室定員を通常の6～7割程度に抑えるなどして、本格的に対面授業を再開しています。今年度の授業では、多くの教員が昨年度に準備した授業資料を有効に活用してアップデートしながら、学生の効果的な学修に繋がっています。

理工学府では、研究中心の大学・大学院を目指し、博士課程前期学生で論文の著者となった学生に対する2017年度から論文顕彰制度を設け、学生が執筆した英語論文の英文校閲料を支援する予算を学長戦略経費として獲得するなどして、学生の研究活動を支援しています。その結果、博士課程前期学生の論文数が2017年度は88本、2018年度は114本、2019年度は143本、2020年度は138本と順調に増加傾向にあります。このような取り組みにより学生の論理的思考力を養うと同時に、工学研究院の研究力向上に繋がっています。

2020年に日本経済新聞社と日経HRが実施した企業の人事担当者から見た大学イメージ調査で、本学が総合ランキング2位にランクインし、大学通信が実施した2020年卒の有名企業400社への実就職率ランキングによると、本学は有名企業400社への実就職率が32.2%で、全国の国公立大学の中で13位、国立大学の中で8位にランクインしました。理工学府では、学部・大学院教育改善のために企業の方々のご意見を伺うため、アンケートを実施したところ、本学卒業生が備えていると思われる項目として「問題解決能力」と「論理的な思考力」、不足していると思われる項目として「問題発掘力」との回答が多くありました。今後、学生の「問題発掘力」の向上のために、学部・大学院のカリキュラム改善に取り組んでいく予定です。また、「問題発掘力」は博士課程後期学生には必須の能力ですが、今後は、博士課程後期進学者の増加に向けての取り組みを合わせて進めていきたいと考えています。

2020-2021
Highlights

教育のハイライト